

4 同和地区に対する差別意識の形成要因－＜視点2＞

ここからは、同和地区やその住民に対する差別意識の形成に影響した要因について検討します。

有効回答者716人のうち、問15（同和問題を知ったきっかけ）で「同和問題については知らない」と回答した43人（6.0%）と不明を除く673人について、以下の分析を行います。

（1）同和地区に対するイメージ

問18では、同和地区に対するイメージについて、プラス・マイナス取り混ぜ11項目が用意されています。このままでは集計分析が非常に煩雑になることから、ここでも因子分析の手法を用いて、同和地区に対する主要なイメージを探ることにします。

「主因子法」で「バリマックス回転」を行い、「因子負荷量」がおおよそ0.4未満しか示さない項目や一義性に欠ける項目を削除し、最終的に表4-1-1のような結果を得ることができました。

第1因子は、「何か問題が起こると、集団で行動することが多い」、「いまでも行政から特別な扱いを受け、優遇されている」、「同和問題に名を借りた、いわゆる『えせ同和行為』で不当な利益を得ている人がいる」、「地区外の人に対して、閉鎖的な意識を持った人が多い」が高い「因子負荷量」を示すことから、「**集団優遇イメージ**」因子と名付けることにします。

第2因子は、「地域の学校において、広く人権問題に関する教育に取り組んでいる」、「同和地区の人々が地域外の人々との交流に力を入れている」、「同和地区では、高齢者や障がい者への生活支援など、同和問題以外の人権問題にも積極的な取り組みが進められている」が高い因子負荷量を示すことから、「**人権交流イメージ**」因子と名付けることにします。

尺度化をするにあたり、「クロンバックの信頼性係数」を求めたところ、第1因子は0.738、第2因子は0.621となりました。十分に高い数値とはいえませんが、これらの項目を用いて尺度を作成することにします。その際、点数が高いほど人権意識が高くなるように、「反集団優遇イメージ」尺度、「人権交流イメージ」尺度と名付けることにします。

表4-1-1 同和地区に対するイメージ 因子分析結果

同和地区に対するイメージ	第1因子	第2因子
問18.6なにか問題が起こると、集団で行動することが多い	0.714	0.086
問18.10いまでも行政から特別な扱いを受け、優遇されている	0.708	0.075
問18.8同和問題に名を借りた、いわゆる「えせ同和行為」で不当な利益を得ている人がいる	0.666	0.188
問18.3地区外の人に対して、閉鎖的な意識を持った人が多い	0.492	-0.095
問18.11地域の学校において、広く人権問題に関する教育に取り組んでいる	0.060	0.634
問18.9同和地区の人々が地域外の人々との交流に力を入れている	-0.110	0.622
問18.7同和地区では、同和問題以外の人権問題にも積極的な取り組みが進められている	0.227	0.563
寄与率	25.2	16.6
累積寄与率	25.2	41.8
クロンバックの信頼性係数	0.738	0.621
因子解釈	集団優遇イメージ	人権交流イメージ

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

第1因子、第2因子それぞれに高い「因子負荷量」を示す項目の選択肢について、第1因子については「そう思う」1点、「どちらかといえばそう思う」2点、「どちらともいえない」3点、「どちらかといえばそう思わない」4点、「そう思わない」5点として単純加算し、平均値を「反集団優遇イメージ度」とします。第2因子については、得点を逆にして単純加算し、平均値を「人権交流イメージ度」とします。

点数が高いほど人権意識が高いことを示すといえます。「反集団優遇イメージ」は平均値2.4、標準偏差0.85、「人権交流イメージ」は平均値3.0、標準偏差0.77です。

〈反集団優遇イメージ〉尺度 同和地区は集団でまとまって、今でも行政から優遇されているというイメージを否定する度合い

「そう思う」1点、「どちらかといえばそう思う」2点、「どちらともいえない」3点、「どちらかといえばそう思わない」4点、「そう思わない」5点の5件法。点数が高いほど人権意識が高い。

- ・何か問題が起こると、集団で行動することが多い
- ・いまでも行政から特別な扱いを受け、優遇されている
- ・同和問題に名を借りた、いわゆる『えせ同和行為』で不当な利益を得ている人がいる
- ・地区外の人に対して、閉鎖的な意識を持った人が多い

〈人権交流イメージ〉尺度 同和地区では、人びとの人権意識を高めるような交流が行われているというイメージの度合い

「そう思う」5点、「どちらかといえばそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「どちらかといえばそう思わない」2点、「そう思わない」1点の5件法。点数が高いほど人権意識が高い。

- ・地域の学校において、広く人権問題に関する教育に取り組んでいる
- ・同和地区の人々が地域外の人々との交流に力を入れている
- ・同和地区では、高齢者や障がい者への生活支援など、同和問題以外の人権問題にも積極的な取組みが進められている

a 同和問題を知ったきっかけとの関連

問15では、同和問題や部落問題などと呼ばれている差別の問題があることを初めて知ったきっかけを問うています。そこで、きっかけの違いによって同和地区に対するイメージに影響があるかどうか検討します。

表4-1-2は、きっかけの違いによる「反集団優遇イメージ」と「人権交流イメージ」の違いをみています。「父母や家族から聞いた」人は、そうでない人よりも「反集団優遇イメージ」が有意に低いことがわかります。「近所の人から聞いた」人では、そうでない人より「反集団優遇イメージ」は高く、「人権交流イメージ」は低い傾向がみられます。

「講演会、研修会などで聞いた」、「府県や市町村の広報誌などで読んだ」人では、「人権交流イメージ」が有意に高くなっていることがわかりますが、「反集団優遇イメージ」については、有意差はみられません。

表4-1-2 同和問題を知ったきっかけと同和地区に対するイメージ

同和問題をはじめて知った きっかけ		反集団優遇イメージ度				人権交流イメージ度			
		平均値	度数	標準偏差	有意差	平均値	度数	標準偏差	有意差
問15.1 父母や家族から 聞いた	あてはまらない	2.5	418	0.9	**	3.0	416	0.8	—
	あてはまる	2.3	166	0.8		3.0	166	0.7	
問15.2 近所の人から聞いた	あてはまらない	2.4	554	0.9	**	3.0	550	0.8	*
	あてはまる	2.9	30	1.2		2.7	32	1.0	
問15.3 学校の友達から 聞いた	あてはまらない	2.4	553	0.9	—	3.0	550	0.8	—
	あてはまる	2.5	31	0.9		3.2	32	0.8	
問15.4 学校の授業で 教わった	あてはまらない	2.5	367	0.9	—	3.0	366	0.8	—
	あてはまる	2.4	217	0.8		3.1	216	0.7	
問15.5 職場の人から聞いた	あてはまらない	2.5	544	0.9	—	3.0	542	0.8	—
	あてはまる	2.4	40	1.0		2.9	40	0.9	
問15.6 講演会、研修会 などで聞いた	あてはまらない	2.4	562	0.9	—	3.0	560	0.8	*
	あてはまる	2.6	22	0.9		3.4	22	0.6	
問15.7 府県や市町村の 広報誌などで読んだ	あてはまらない	2.4	565	0.9	—	3.0	563	0.8	*
	あてはまる	2.6	19	1.0		3.4	19	1.0	
問15.8 テレビ、映画、新聞、 雑誌、書籍などで知った	あてはまらない	2.5	499	0.9	—	3.0	498	0.8	—
	あてはまる	2.3	85	1.0		2.9	84	0.9	
問15.9 インターネットの サイトなどで知った	あてはまらない	2.5	580	0.9	—	3.0	578	0.8	—
	あてはまる	1.8	4	0.7		2.8	4	0.6	
問15.10 近くに同和地区が あった	あてはまらない	2.5	534	0.9	—	3.0	531	0.8	—
	あてはまる	2.4	50	0.8		3.1	51	0.8	
問15.11 自分の身近で同和 問題に関する差別があった	あてはまらない	2.5	572	0.9	—	3.0	569	0.8	—
	あてはまる	2.2	12	0.6		3.2	13	0.9	

【知見】

○ 父母や家族など身近な人々からの情報は「反集団優遇イメージ」を低め、公的な啓発は「人権交流イメージ」を高める上での影響がみられる。

b 同和地区に対するイメージを持った理由との関連

今度は、同和地区に対するイメージを持った理由と「反集団優遇イメージ」、「人権交流イメージ」との関連をみることにします。

表4-1-3 同和地区に対するイメージを持った理由と同和地区に対するイメージ

同和地区に対するイメージ をもった理由		反集団優遇イメージ度				人権交流イメージ度			
		平均値	度数	標準偏差	有意差	平均値	度数	標準偏差	有意差
問18.1.1 とくにこれといった 理由はなく、単なるイメージ	あてはまらない	2.2	299	0.8	***	3.1	297	0.8	*
	あてはまる	2.7	282	0.8		2.9	280	0.8	
問18.1.2 自分の身近にいる人が 話している内容などから	あてはまらない	2.6	399	0.9	***	3.0	395	0.8	—
	あてはまる	2.2	182	0.8		3.0	182	0.7	
問18.1.3 インターネット上の 情報やメディアによる報道、書籍などが	あてはまらない	2.5	475	0.9	***	3.0	473	0.8	—
	あてはまる	2.1	106	0.7		3.0	104	0.7	
問18.1.4 学校時代の学習経験や 地域・職場での研修などから	あてはまらない	2.5	458	0.9	*	3.0	454	0.7	*
	あてはまる	2.3	123	0.8		3.2	123	0.9	
問18.1.5 地方公共団体や民間 啓発団体などの啓発資料から	あてはまらない	2.5	515	0.9	—	3.0	512	0.8	*
	あてはまる	2.3	66	0.9		3.2	65	0.7	
問18.1.6 以前、同和地区あるいは その近くに住んでいてその時の印象から	あてはまらない	2.5	496	0.9	*	3.0	494	0.8	—
	あてはまる	2.3	85	0.7		3.1	83	0.7	
問18.1.7 同和地区に友人（知人）が すんでいて、その人からの話で	あてはまらない	2.5	503	0.9	*	3.0	498	0.8	—
	あてはまる	2.2	78	0.9		3.0	79	0.8	
問18.1.8 その他 自らの体験に基づいて	あてはまらない	2.5	537	0.9	—	3.0	534	0.8	**
	あてはまる	2.3	44	0.8		3.3	43	0.8	

表4-1-3から、「自分の身近にいる人が話している内容などから」、「インターネット上の情報やメディアによる報道、書籍などからの情報で」という場合、「反集団優遇イメ

ージ」を低くする働きをしていることがわかります。また、「以前、同和地区あるいはその近くに住んでいて、その時の印象から」、「同和地区に友人（知人）が住んでいて、その人からの話で」といった、直接に間近で経験したことから、「反集団優遇イメージ」を低くした人も少なくないことがわかります。

他方、「学校時代の学習経験や地域・職場での研修などから」、「地方公共団体や民間啓発団体などの啓発資料から」という場合、また、「自らの体験に基づいて」という場合も、「人権交流イメージ」が高くなっていることがわかります。

【知見】

- 「自分の身近にいる人が話している内容などから」、「インターネット上の情報やメディアによる報道、書籍などからの情報で」という場合、「反集団優遇イメージ」を低くする働きをしている。
- 「以前、同和地区あるいはその近くに住んでいて、その時の印象から」、「同和地区に友人（知人）が住んでいて、その人からの話で」といった直接的な身近な経験が「反集団優遇イメージ」を低くした傾向がみられる。
- 「学校時代の学習経験や地域・職場での研修などから」、「地方公共団体や民間啓発団体などの啓発資料から」という場合、「人権交流イメージ」が高くなる傾向がみられる。
- 「自らの体験に基づいて」という場合に「人権交流イメージ」が高い傾向がみられる。

c 就職差別、結婚差別の現状認識、その解決に向けた将来展望との関連

同和地区の人々は、就職するときには不利になったり、結婚するときには反対されたりすることがあるかどうか、そして、不利になったり、反対されたりすることが近い将来、なくすることができるかどうかという判断と同和地区のイメージとの関連をみてみます。表4-1-4です。

「就職するときには不利になることがある」あるいは「結婚する際に反対される可能性がある」と認識しており、なおかつ、「近い将来もなくすのは難しい」と考えている人ほど、「不利になることはない（反対されることはない）」あるいは「近い将来なくせる」と考えている人よりも「反集団優遇イメージ」が低い傾向にあることがわかります。

「就職するときには不利になることがある」、あるいは「結婚する際に反対される可能性がある」という認識であっても、「近い将来完全になくせる」「かなりなくすることができる」と考えている人は、「なくすのは難しい」と考えている人よりも「人権交流イメージ」が高い傾向にあることがわかります。

表4-1-4 就職や結婚差別の将来についての展望と同和地区イメージ

	反集団優遇イメージ度				人権交流イメージ度				
	平均値	度数	標準偏差	有意差	平均値	度数	標準偏差	有意差	
就職が不利 なくなっている	2.4	67	0.9	*	3.0	68	0.9	*	
	完全になくせる	2.5	13		0.7	3.3	13		0.9
	かなりなくすことができる	2.5	155		0.8	3.1	153		0.7
	わからない	2.6	253		0.9	2.9	249		0.8
	なくすのは難しい	2.2	115		0.9	3.0	116		0.7
	合計	2.5	603		0.9	3.0	599		0.8
結婚が不利 なくなっている	2.5	27	1.0	***	2.9	28	0.7	**	
	完全になくせる	2.4	17		0.7	3.4	18		0.9
	かなりなくすことができる	2.4	182		0.8	3.2	180		0.7
	わからない	2.7	170		0.9	2.9	167		0.9
	なくすのは難しい	2.3	195		0.9	2.9	194		0.8
	合計	2.5	591		0.9	3.0	587		0.8

【知見】

- 同和地区の人たちは「就職するとき不利になることがある」あるいは「結婚する際に反対されることがある」と認識しており、なおかつ、「近い将来なくすのは難しい」と認識している人ほど「反集団優遇イメージ」は低い傾向にある。
- 同和地区の人たちは「就職するとき不利になることがある」あるいは「結婚する際に反対されることがある」と認識していても、「近い将来完全になくせる」と考えている人は、「近い将来なくすのは難しい」と考えている人よりも「人権交流イメージ」が高い傾向にある。

ここで、同和地区の人たちに対する就職差別、結婚差別の解決に向けた将来展望と同和問題を知ったきっかけとの間の関連を検討しておきます。

問15と問19、20（同和地区の人たちに対する就職差別、結婚差別の現状認識）および問15と問19-1、20-1（就職差別、結婚差別の解決に向けた将来展望）とのクロス集計を行いました。有意差がみられた結果のみ掲載します。

表4-1-5 父母や家族から聞いたと、結婚に反対されることがある

		問20同和地区の人たちは結婚する際に反対されることがあると思うか					合計
		しばしば反対されることがある	たまに反対されることがある	反対されることがはない	わからない	しばしばまたはたまにある	
問15.1父母や家族から聞いた	あてはまらない	100	121	25	137	40	423
		23.6%	28.6%	5.9%	32.4%	9.5%	100.0%
	あてはまる	57	61	4	37	14	173
		32.9%	35.3%	2.3%	21.4%	8.1%	100.0%
合計		157	182	29	174	54	596
		26.3%	30.5%	4.9%	29.2%	9.1%	100.0%

$\chi^2 = 14.427$ $df=4$ $p=.006$ **

表4-1-6 父母や家族から聞いたと、近い将来、なくすことができると思うか

		問20.1近い将来、なくすことができると思うか					合計
		完全になくせる	かなりなくすことができる	なくすのは難しい	なくなっている	わからない	
問15.1父母や家族から聞いた	あてはまらない	12 2.8%	128 30.1%	123 28.9%	25 5.9%	137 32.2%	425 100.0%
	あてはまる	8 4.6%	55 31.6%	70 40.2%	4 2.3%	37 21.3%	174 100.0%
合計		20 3.3%	183 30.6%	193 32.2%	29 4.8%	174 29.0%	599 100.0%

$\chi^2 = 14.526$ $df = 4$ $p = .006$ **

表4-1-5のように、同和問題をはじめて知ったきっかけが、「父母や家族から聞いた」場合だけ、そうでない場合よりも、「同和地区の人たちは、結婚する際に反対されることがある」という傾向が高いという結果になっています。「就職するときに不利になる」ということについては、有意差は認められません。

また、表4-1-6のように、「結婚する際に反対されることがある」ということを、「父母や家族から聞いた」場合だけ、そうでない場合よりも、「なくすのは難しい」という認識が有意に高いことがわかります。ここでも、「就職するときに不利になる」ということについては、有意差は認められません。

【知見】

- 同和問題や部落問題について、「父母や家族から聞いた」場合だけ、そうでない場合よりも、「同和地区の人たちは、結婚する際に反対されることがある」という傾向が高い。
- 「結婚する際に反対されることがある」ということを、「父母や家族から聞いた」場合だけ、そうでない場合よりも、「なくすのは難しい」という認識が有意に高い。

d 同和問題についての学習との関連

人権問題についての学習の中で同和問題についての学習が特に役に立った（一番印象に残っている）と回答した人とそうでない人について、同和地区に対するイメージに差異があるかどうか、検討します。

表4-1-7からは、「反集団優遇イメージ」についても「人権交流イメージ」についても有意差はみられません。

表4-1-7 同和問題学習が役に立ったと、同和地区イメージ

			反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
問12. 2a5同和問題	あてはまらない	平均値	2.3	3.1
		度数	109	109
		標準偏差	0.7	0.7
	あてはまる	平均値	2.4	3.1
		度数	223	222
		標準偏差	0.8	0.7
		有意差	—	—

【知見】

- 同和問題についての学習が特に役に立った（一番印象に残っている）と回答した人とそうでない人との間で、「反集団優遇イメージ」についても「人権交流イメージ」についても有意差はみられない。

（２）差別の社会化の影響

a 人権意識、差別意識との関連

個々人が、生まれた後に身近な人々から差別を教えられ学習する過程を、私は「差別の社会化」と名付けています。今回の調査では、問18において、「同和地区の人はこわい」あるいは「同和対策は不公平だ」というような話を聞いた経験を問うています。

ここでは、「差別の社会化」の経験と人権意識、差別意識との関連をみてみます。

同和問題についてまったく知らないという43名を除いて、673名のうち、聞いたことが「ある」は415名（58.0%）、聞いたことは「ない」は216名（30.2%）、不明42名（5.9%）となっています。

私に関わった「豊中市人権意識調査2007」や「明石市人権意識調査2010」では、このような話を聞いたことのある人々において、その時にどう思ったかという受け止め方の違いによって差別意識は異なることが明らかになっています。今回の調査でも、その点を確認しておきます。

表4-2では、差別の社会化を経験して、「そのとおりに思った」（賛同）、「そういう見方もあるのかと思った」（容認）、「特に何も思わなかった」（無関心）、「反発・疑問を感じた」（反発）、「聞いたことはない」という場合の人権意識、差別意識についての平均値を求めて比較を行っています。

表4-2 差別の社会化と人権意識・差別意識との関連

		排除問題意識	体罰問題意識	人権推進支持意識	被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
そのとおりに思った	平均値	2.9	2.3	3.6	2.5	3.2	12.1	2.4	1.8	2.9
	度数	94	95	95	95	96	95	95	93	91
	標準偏差	0.7	0.9	1.0	1.0	1.0	1.9	1.1	0.7	0.8
そういう見方もあるのかと思った	平均値	3.1	2.4	4.0	2.9	3.3	12.4	3.0	2.2	3.1
	度数	219	222	209	209	210	216	214	207	203
	標準偏差	0.6	0.8	0.8	1.0	0.9	1.6	1.1	0.6	0.7
とくに何も思わなかった	平均値	2.9	2.5	3.7	2.7	3.3	12.3	2.8	2.7	2.8
	度数	32	34	34	33	33	33	31	31	30
	標準偏差	0.6	1.0	0.8	0.8	0.8	1.7	1.1	0.9	0.8
反発・疑問を感じた	平均値	3.3	2.4	4.2	3.1	3.6	12.5	3.6	2.6	3.3
	度数	47	48	47	47	47	50	48	46	45
	標準偏差	0.6	1.0	0.7	1.1	0.9	1.6	1.1	0.8	0.8
聞いたことはない	平均値	3.1	2.6	3.9	3.1	3.4	12.5	3.2	3.0	2.9
	度数	207	210	207	207	210	205	205	200	203
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	0.9	0.9	1.6	1.1	0.9	0.8
合計	平均値	3.1	2.4	3.9	2.9	3.4	12.4	3.0	2.5	3.0
	度数	599	609	592	591	596	599	593	577	572
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.7	1.1	0.9	0.8
	有意差	**	—	***	***	—	—	***	***	**

総じて、差別の社会化を経験して「そのとおりに思った」（賛同）人ほど、人権意識は低く、差別意識は高く、反対に「反発・疑問を感じた」（反発）人ほど、人権意識が高く、

差別意識は低い傾向を示していることがわかります。また、「聞いたことはない」人は、「反発・疑問を感じた」人よりも差別意識がやや高く、人権意識はやや低い傾向があるものの、差別の社会化を経験して「そういう見方もあるのかと思った」（容認）人および「特に何も思わなかった」（無関心）人よりも差別意識は低く、人権意識はやや高い傾向が窺えます。

ただし、体罰問題意識、差別容認否定意識、結婚排除否定意識については、有意差はみられません。

【知見】

- 差別の社会化を経験して「賛同」した人ほど人権意識は低く、差別意識は高く、反対に、「反発」した人ほど人権意識が高く、差別意識は低い傾向にある。
- 差別の社会化の経験と、体罰問題意識、差別容認否定意識、結婚排除意識との間に関連があるとはいえない。

b 人権学習との関係（効果）

図4-1は、差別の社会化を経験して、その受け止め方の違いごとに「人権推進支持意識」、「結婚排除否定意識」、「反忌避意識」の平均値を求め、その上で、それぞれの人が経験したことがある人権学習の中で特に役に立った（一番印象に残っている）もの別に、「人権推進支持意識」、「結婚排除否定意識」、「反忌避意識」の平均値を求めたものです。

差別の社会化を経験したことがない人は、「人権推進支持意識度」3.9、「結婚排除否定意識度」12.4、「反忌避意識度」3.0です。

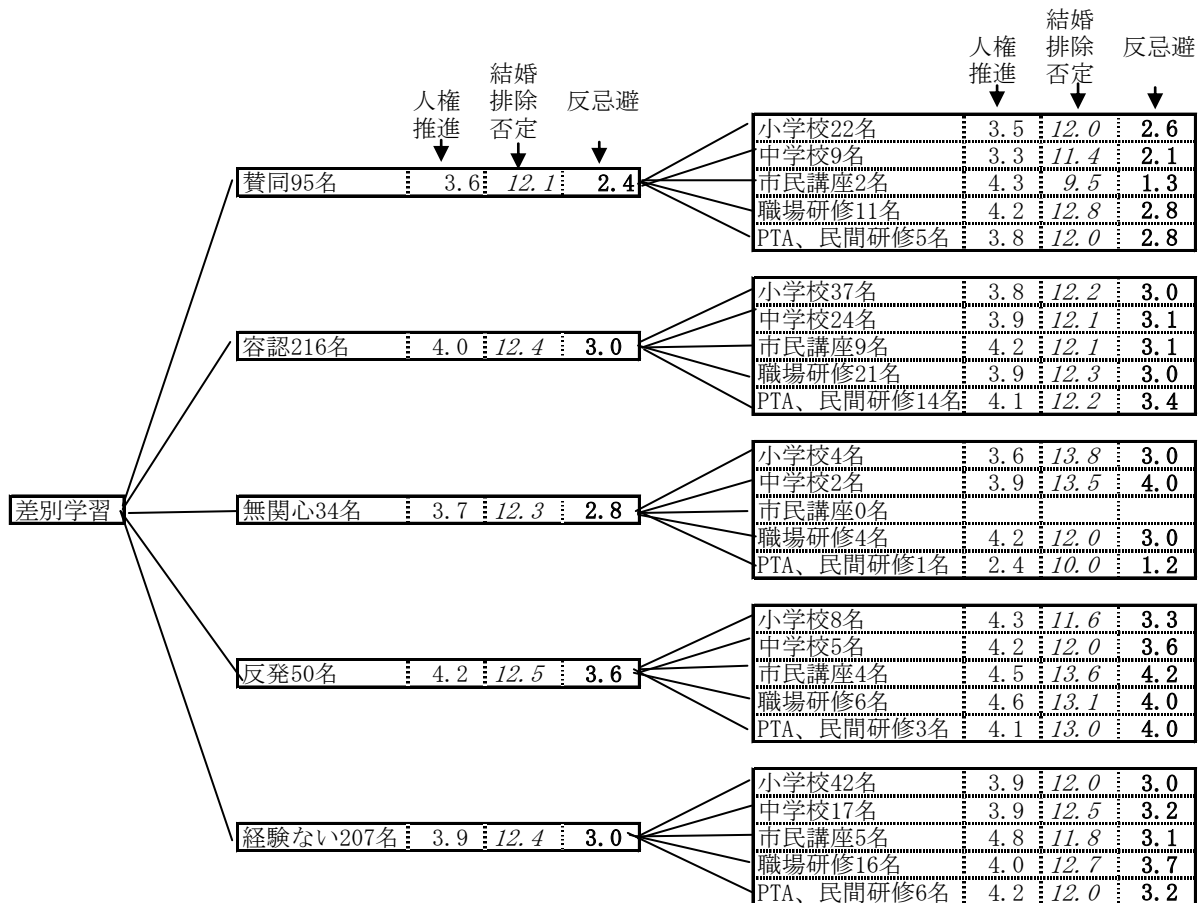
差別の社会化を経験して「賛同」した人のうち、小学校、中学校での学習は、差別の社会化を経験したことがない人の水準まで人権意識を引き上げる効果は上げていません。市民対象の講座等が特に役に立った（一番印象に残っている）と回答した人では、「人権推進支持意識度」が4.3と、人権学習を経験したことがない人よりも高くなっていますが、回答者が2人とごく少数であるため、この結果を知見とすることはできません。また、職場の研修が特に役に立った（一番印象に残っている）と回答した人では、「人権推進支持意識度」は4.3、「結婚排除否定意識度」は12.8と高くなっており、学習の効果が認められるものの、「容認」した人たちのなかで、職場の研修が特に役に立ったと回答した人では、「人権推進支持意識」も「結婚排除否定意識度」も高くなっているとは言えません。それゆえ、職場の研修が「差別の社会化」の影響を下げる効果があるとは、一概には言えないのです。ちなみに、特に役に立った（一番印象に残っている）人権学習がいずれであっても、「反忌避意識度」については、差別の社会化を経験した人が、差別の社会化を経験したことがない人の水準まで高くはなっていません。

差別の社会化を経験して「容認」した人のなかで、市民対象の講座等やPTA等が主催する研修が特に役に立った（一番印象に残っている）と回答した人の「人権推進支持意識度」は、差別の社会化を経験していない人よりも高くなっています。しかし、「結婚排除否定意識度」と「反忌避意識度」は低くなっており、人権学習を受けても、差別の社会化を経験したことがない人の水準まで人権意識を押し上げる効果を上げていません。

差別の社会化を経験して「無関心」な人で、職場研修を受けた人では、「人権推進支持

意識」が高くなっており、中学校での人権学習では、「結婚排除否定意識」、「反忌避意識」を高める効果があったと評価されます。ただし、小学校、中学校での人権学習では、「結婚排除否定意識」、「反忌避意識」は低い傾向にあります。

図4-1



差別の社会化を経験して「反発」した人は、経験したことがない人より「人権推進意識度」、「結婚排除否定意識度」、「反忌避意識度」のいずれも高い傾向にあります。また、人権学習を経験することによって、さらに人権意識が高くなる傾向にあります。ただし、小学校と中学校での人権学習が特に役に立った（一番印象に残っている）と回答した人では、「結婚排除否定意識」が高くなっていません。

差別の社会化を経験していない人々における人権学習の効果をみると、小学校での人権学習を除いて、「人権推進意識」、「反忌避意識」が高くなっています。しかし、結婚排除否定意識では、さほど効果が認められません。

【知見】

- 差別の社会化を経験して「賛同」したり「容認」した人では、人権問題についての学習を受けていても、差別の社会化を経験したことがない人と比較して「結婚排除否定意識」や「反忌避意識」が同程度に高いとはいえない。
- 差別の社会化を経験して「無関心」な人で、職場研修を受けた人では、「人権推進支

持意識」が高くなっており、中学校での人権学習では、「結婚排除否定意識」、「反忌避意識」を高める効果があったことがわかる。

- 差別の社会化を経験して「反発」した人は、経験したことがない人より「人権推進意識度」、「結婚排除否定意識度」、「反忌避意識度」のいずれも高い傾向にある。また、人権学習を経験することによって、さらに人権意識が高くなる傾向にある。
- 差別の社会化を経験したことがない人について、特に役に立った（一番印象に残っている）と評価している人権学習の効果を見ると、「市民対象の講座など」や「PTAや民間団体が主催する研修」を受けた場合には、「人権推進支持意識」や「反忌避意識」が高いという効果がみられるが、「結婚排除否定意識」については、いずれの学習も効果が上がっているとはいえない。

(3) 同和地区・住民との関わりと人権意識、差別意識との関連

問23では、同和地区やその住民との関わりについて問うています。同和地区やその住民との関わり方の違いにより人権意識や差別意識が異なるかどうか検討します。

表4-3-1～4-3-6から、同和地区やその近くに住んでいたことがある人や同和地区やその住民と関わったことのある人ほど、そうでない人よりも「反忌避意識」が高い傾向にあること、同和地区やその住民と関わったことがある人ほどそうでない人よりも相対的に「排除問題意識」、「被差別責任否定意識」、「反忌避意識」、「人権交流イメージ」が強い傾向にあることがわかります。

以下では、同和地区の住民との関わり方の有無によって、人権意識を高める効果が統計的に有意にみられるところを太字にしています。

表4-3-1

1同和地区やその近くに住んでいたことがある

	排除問題意識	体罰問題意識	人権推進支持意識	被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
あてはまらない	3.1	2.4	3.9	2.9	3.3	12.3	2.9	2.5	3.0
度数	475	481	464	461	464	474	470	461	456
標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.7	1.1	0.9	0.8
あてはまる	3.1	2.4	3.9	3.0	3.4	12.6	3.4	2.5	3.1
度数	114	116	116	116	118	112	112	109	108
標準偏差	0.7	0.8	0.8	1.0	0.9	1.4	1.2	0.8	0.7
有意差	—	—	—	—	—	—	***	—	—

表4-3-2

2同和地区に友人（知人）がいる

	排除問題意識	体罰問題意識	人権推進支持意識	被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
あてはまらない	3.1	2.4	3.9	2.9	3.3	12.3	2.9	2.5	3.0
度数	462	469	454	452	456	459	456	443	440
標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.7	1.2	0.9	0.8
あてはまる	3.1	2.3	3.8	2.9	3.4	12.7	3.4	2.4	3.0
度数	127	128	126	125	126	127	126	127	124
標準偏差	0.6	0.9	0.9	1.0	1.0	1.4	1.1	0.9	0.8
有意差	—	—	—	—	—	**	***	—	—

表4-3-3

3同和地区内の施設（人権センターや隣保館など）を利用したことがある

	排除問題意識	体罰問題意識	人権推進意識	支被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
あてはまらない	3.1	2.4	3.9	2.9	3.3	12.4	3.0	2.5	3.0
度数	519	527	514	512	516	518	513	505	499
標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.7	1.2	0.9	0.8
あてはまる	3.3	2.6	4.0	3.3	3.6	12.4	3.4	2.5	3.3
度数	70	70	66	65	66	68	69	65	65
標準偏差	0.7	0.9	0.8	1.0	0.9	1.5	1.1	0.9	0.9
有意差	*	—	—	**	—	—	*	—	**

表4-3-4

4盆踊りやまつりなど、同和地区の人との交流事業やイベントに参加したことがある

	排除問題意識	体罰問題意識	人権推進意識	支被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
あてはまらない	3.1	2.4	3.9	2.9	3.3	12.4	3.0	2.5	3.0
度数	539	547	534	530	535	537	532	522	516
標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.7	1.1	0.9	0.8
あてはまる	3.2	2.5	4.1	3.3	3.5	12.3	3.4	2.4	3.2
度数	50	50	46	47	47	49	50	48	48
標準偏差	0.7	0.9	0.9	1.0	0.9	1.5	1.1	0.9	0.9
有意差	—	—	*	*	—	—	*	—	—

表4-3-5

5地域の身近な課題解決に向けて、同和地区の人と協働して取り組んだことがある

	排除問題意識	体罰問題意識	人権推進意識	支被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
あてはまらない	3.1	2.4	3.9	2.9	3.3	12.4	3.0	2.5	3.0
度数	574	582	565	563	567	571	567	555	549
標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.7	1.1	0.9	0.8
あてはまる	3.4	3.0	4.5	3.8	3.8	12.4	3.8	2.7	3.9
度数	15	15	15	14	15	15	15	15	15
標準偏差	0.8	0.8	0.6	0.9	0.9	1.5	1.3	1.0	0.5
有意差	*	*	**	**	*	—	*	—	***

表4-3-6

7同和地区の人との関わりはまったくない

	排除問題意識	体罰問題意識	人権推進意識	支被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
あてはまらない	3.2	2.4	3.9	3.0	3.4	12.6	3.3	2.4	3.1
度数	272	277	267	267	268	270	267	266	264
標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.5	1.1	0.8	0.8
あてはまる	3.0	2.4	3.9	2.9	3.3	12.2	2.8	2.5	2.9
度数	317	320	313	310	314	316	315	304	300
標準偏差	0.6	0.9	0.8	0.9	0.9	1.8	1.1	0.9	0.8
有意差	*	—	—	—	*	**	***	—	*

表4-3-7は、表4-3-1～表4-3-6の「あてはまる」を統合した表です。

さまざまの関わりの中なかで、「地域の身近な課題解決に向けて、同和地区の人と協働して取り組んだことがある」という人びとが、相対的にいずれの人権意識も高い傾向にあることがわかります。見方を変えれば、人権意識の高い人々が、積極的に「地域の身近な課題解決に向けて、同和地区の人と協働して取り組み」をしているということかもしれません。

表4-3-7

同和地区や住民との関わり		排除問題 意識	体罰問題 意識	人権推進支 持意識	差別責任 否定意識	差別容認 否定意識	結婚排除 否定意識	反忌避 意識	反集団優遇 イメージ	人権交流 イメージ
1同和地区やその近くに 住んでいたことがある	平均値	3.1	2.3	3.9	3.0	3.4	12.5	3.3	2.4	3.0
	度数	211	215	219	219	221	215	207	209	208
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.5	1.1	0.8	0.8
2同和地区に友人 (知人)がいる	平均値	3.1	2.2	3.8	2.8	3.5	12.5	3.3	2.4	3.1
	度数	276	279	274	274	272	274	272	272	271
	標準偏差	0.7	0.9	0.9	1.1	1.0	1.6	1.1	0.8	0.7
3同和地区内の施設 (人権センターや隣保館など) を利用したことがある	平均値	3.2	2.5	4.0	3.1	3.5	12.4	3.2	2.5	3.2
	度数	127	130	131	131	131	134	134	132	131
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.6	1.1	0.8	0.8
4盆踊りやまつりなど、 同和地区の人との交流事業や イベントに参加したことがある	平均値	3.2	2.4	4.0	3.2	3.5	12.6	3.4	2.5	3.3
	度数	99	101	97	99	97	100	102	100	100
	標準偏差	0.6	1.0	0.9	1.0	0.9	1.6	1.1	0.9	0.8
5地域の身近な課題解決に向けて、 同和地区の人と協働して取り 組んだことがある	平均値	3.4	2.7	4.1	3.5	3.5	12.4	3.6	2.7	3.6
	度数	28	28	28	26	28	27	28	27	28
	標準偏差	0.7	0.9	0.8	0.9	1.0	1.5	1.2	1.1	0.8
7同和地区の人との関わりは まったくない	平均値	3.0	2.4	3.9	2.9	3.3	12.2	2.8	2.5	2.9
	度数	583	589	568	565	568	568	569	558	556
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	0.9	0.8	1.7	1.1	0.9	0.8

【知見】

- 同和地区やその住民と関わりがある人ほど、「反忌避意識」、「人権交流イメージ」が高い傾向がみられる。

(4) 自己評価と人権意識、差別意識との関連

今度は、視点を変えて、回答者の自己評価と人権意識、差別意識との関連をみてみます。

問13の8項目について因子分析を行った結果が、表4-4-1です。2因子を抽出することができました。

第1因子は、「自分は、困難なことでも、何とかやり遂げることができると思う*」、「自分は、人とうまくやっていける人間だと思う*」、「自分には、ほかの人にはないよい点があると思う*」、「自分は、何をやってもだめな人間だと思うことがある」、「自分は、まわりの人から期待されていないと思うことがある」が高い「因子負荷量」を示すことから、「自己肯定感」因子と名付けることにします。

第2因子は、「現在、自分の生活は充実している*」、「最近、自分の生活は生きづらくなってきたと思う」「自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいくとは限らないと思う」が高い「因子負荷量」を示すことから、「自己充実感」因子と名付けることにします。

自己肯定感、自己充実感の尺度を作成するに当たって「一次元性」をみると、「クロンバックの信頼性係数」はそれぞれ0.716、0.655であり、十分に大きな値ではないが尺度を作成する上で問題ないと判断できます。

第1因子に強く反応する5項目について、自己肯定感が強い選択肢ほど高い得点を与え、平均値を「自己肯定感度」とします。同様に、第2因子に強く反応する3項目の得点の平均値を「自己充実感度」とします。

「自己肯定感度」平均値3.67、標準偏差0.823、「自己充実感度」平均値3.34、標準偏差1.10です。

表4-7 自己評価の因子分析

自己評価	第1因子	第2因子
問13.7自分は、困難なことでも、何とかやり遂げることができると思う*	0.627	0.161
問13.5自分は、人とうまくやっていける人間だと思う*	0.580	0.164
問13.3自分には、ほかの人にはないよい点があると思う*	0.541	0.071
問13.4自分は、何をやってもだめな人間だと思うことがある	0.511	0.375
問13.6自分は、まわりの人から期待されていないと思うことがある	0.450	0.325
問13.2最近、自分の生活は生きづらくなってきたと思う	0.043	0.810
問13.1現在、自分の生活は充実している*	0.236	0.577
問13.8自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいくとは限らないと思う	0.285	0.424
寄与率	20.3	18.4
累積寄与率	20.3	38.7
クロンバックの信頼性係数	0.716	0.655
因子解釈	自己肯定感	生活充実感

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

*のついている項目は、「あてはまる」5、「ややあてはまる」4、「あまりあてはまらない」2、「あてはまらない」1、「わからない」3に変更している。

また、問14は被受容感を問う項目です。こちらについても、因子分析により、各項目の有効性を検討したうえで、被受容度の尺度を構成しようと思います。因子分析の結果は、表4-4-2のとおりです。クロンバックの信頼性係数は0.800と大きく、1次元尺度を構成することに問題なく、「被受容感」因子と解釈します。

表4-4-2 被受容感に関する項目の因子分析

被受容項目	第1因子
問14.5自分には信頼できる人がいる*	0.814
問14.3人間関係のトラブルが生じたら、相談できる人がいる*	0.792
問14.1自分には、どんな時でも自分を受け入れ、認めてくれる人がいる*	0.722
問14.2信頼できる少数の友だちとは深くつきあうほうだ*	0.548
問14.4家の中にも、職場や学校にもどこにも自分の居場所がないような気がする	0.461
寄与率	46.5
クロンバックの信頼性係数	0.800
因子解釈	被受容感

因子抽出法：主因子法

*のついている項目は、「あてはまる」5、「ややあてはまる」4、「あまりあてはまらない」2、「あてはまらない」1、「わからない」3に変更している。

<自己肯定感尺度> 自分自身を肯定的に評価する度合い

「あてはまる」1点、「ややあてはまる」2点、「あまりあてはまらない」4点、「あてはまらない」5点、「わからない」3点の5件法。点数の高いほど自己評価が高い。（「*」は、点数を逆にする意）

- ・自分は、困難なことでも、何とかやり遂げることができると思う*
- ・自分は、人とうまくやっていける人間だと思う*
- ・自分には、ほかの人にはないよい点があると思う*
- ・自分は、なにをやってもだめな人間だと思う
- ・自分は、まわりの人から期待されていないと思うことがある

<自己充実感尺度> 自分の生活内容を肯定的に評価する度合い

「あてはまる」1点、「ややあてはまる」2点、「あまりあてはまらない」4点、「あ

てはまらない」5点、「わからない」3点の5件法。点数の高いほど自己評価が高い。（「*」は、点数を逆にする意）

- ・ 現在、自分の生活は充実している*
- ・ 最近、自分の生活は生きづらくなってきたと思う
- ・ 自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいくとは限らないと思う

<被受容感尺度> 自分が社会から受け入れられていると評価する度合い

「あてはまる」1点、「ややあてはまる」2点、「あまりあてはまらない」4点、「あてはまらない」5点、「わからない」3点の5件法。点数の高いほど被受容感が高い。（「*」は、点数を逆にする意）

- ・ 自分には、どんな時でも自分を受け入れ、認めてくれる人がいる*
- ・ 信頼できる少数の友だちとは深くつきあうほうだ*
- ・ 人間関係のトラブルが生じたら、相談できる人がいる*
- ・ 家の中にも、職場や学校にもどこにも自分の居場所がないような気がする
- ・ 自分には信頼できる人がいる*

それでは、自己評価や被受容感の高さと人権意識、差別意識との間に関連がみられるでしょうか。

表4-4-3によりますと、「自己肯定感」、「自己充実感」、「被受容感」は、いずれの人権意識とも関連がみられません。

表4-4-3

		自己肯定感	自己充実感	被受容感	人権推進支持意識	被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識
自己肯定感	Pearson の相関係数	1	0.458	0.503	0.000	-0.031	0.017	0.002	-0.073
	有意確率（両側）		0.000	0.000	0.993	0.436	0.662	0.959	0.064
	N	670	667	668	633	634	638	639	639
自己充実感	Pearson の相関係数	0.458	1	0.471	-0.051	0.071	0.071	0.014	-0.074
	有意確率（両側）	0.000		0.000	0.200	0.072	0.072	0.729	0.062
	N	667	676	673	638	640	644	644	642
被受容感	Pearson の相関係数	0.503	0.471	1	0.011	0.023	0.004	-0.026	-0.063
	有意確率（両側）	0.000	0.000		0.782	0.559	0.923	0.510	0.108
	N	668	673	678	639	641	646	646	644

【知見】

- 「自己肯定感」、「自己充実感」、「被受容感」のいずれも、人権意識と関連があるとはいえない。

自己評価を高める取り組みや被受容感を高める取り組みが、無意味ということではないはずですが、自己評価や被受容感を高めることが、人権意識とどのように関連するのか、さらに詳細な検討が必要なことは確かです。

現在の暮らし向きとの関連についてもみておきます。

表4-4-4 暮らし向きと人権意識

現在の暮らし向き		排除問題意識	体罰問題意識	人権推進意識	被差別責任否定意識	差別容認否定意識	結婚排除否定意識	反忌避意識	反集団優遇イメージ	人権交流イメージ
良い	平均値	3.1	2.4	3.9	3.0	3.4	12.5	3.1	2.5	3.1
	度数	75	75	75	76	76	76	76	69	69
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.9	1.3	1.1	0.9	0.9
やや良い	平均値	3.0	2.5	3.8	2.9	3.2	12.0	2.9	2.4	3.2
	度数	75	77	72	72	73	77	74	70	69
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	0.9	1.0	1.9	1.2	0.7	0.6
ふつう	平均値	3.1	2.4	3.9	2.9	3.4	12.5	2.9	2.5	3.0
	度数	330	338	325	328	329	332	329	297	297
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	1.0	0.8	1.6	1.1	0.9	0.8
やや悪い	平均値	3.0	2.3	3.8	2.8	3.3	12.3	3.1	2.4	2.9
	度数	118	119	118	116	118	116	114	107	106
	標準偏差	0.7	0.9	0.9	1.0	1.0	1.6	1.1	0.8	0.7
悪い	平均値	2.9	2.5	3.9	3.1	3.4	12.2	3.2	2.3	2.9
	度数	52	53	50	51	51	50	50	42	42
	標準偏差	0.8	1.1	0.8	1.0	0.9	1.9	1.1	1.1	0.9
有意差		*	—	—	—	—	—	—	—	—

現在の暮らし向きが良いほど、「排除問題意識」が高いことがわかります。そのほかの人権意識との間に有意な関連はみられません。

【知見】

- 現在の暮らし向きがよいほど、「排除問題意識」が高い。